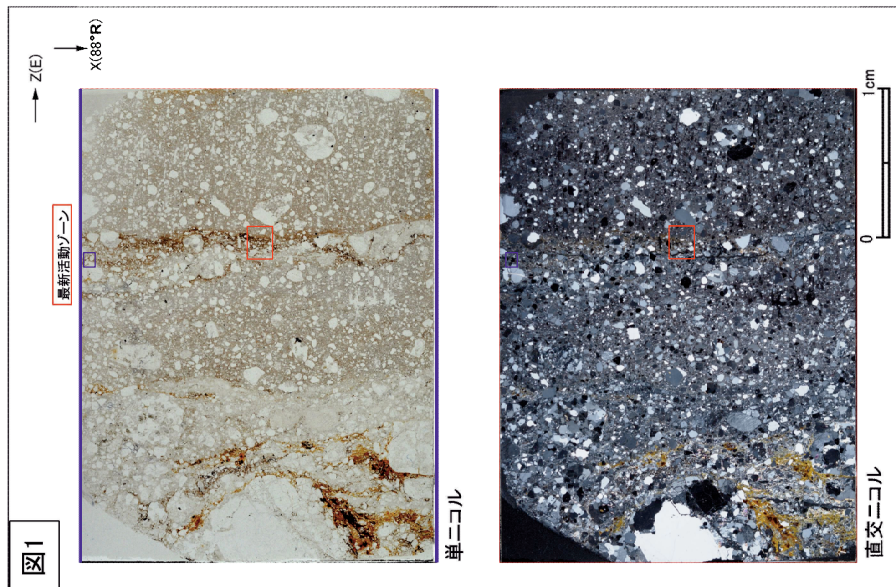
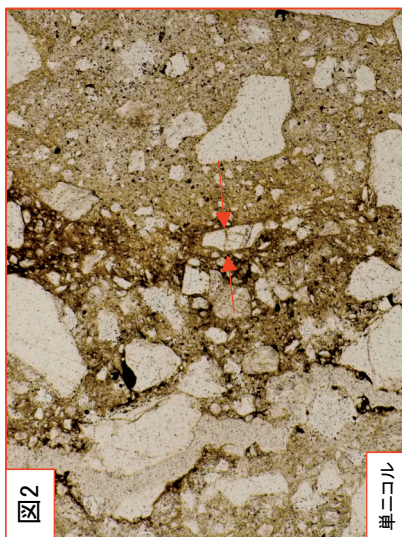


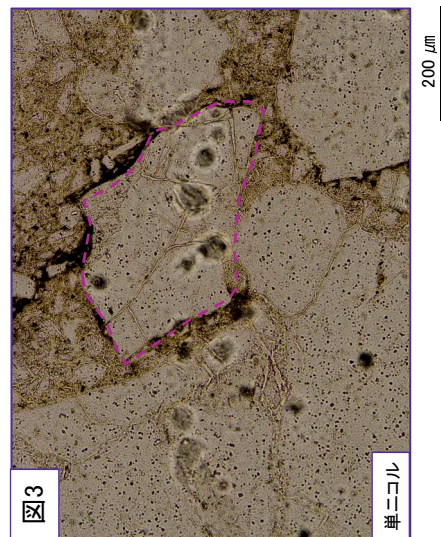
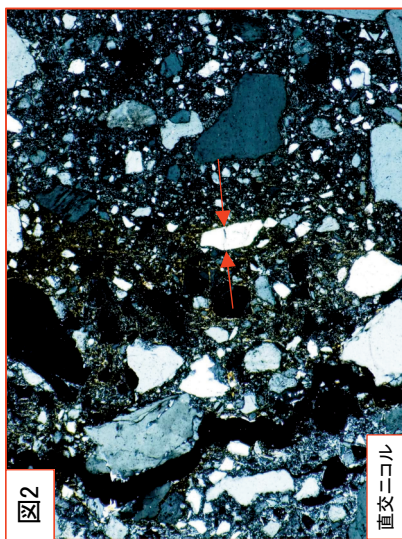
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図2)
- 粘土鉱物の分布は漸移的に変化する。(図1)
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図2)
- 角ばった岩片が多い。(図2)
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図2)
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図3)



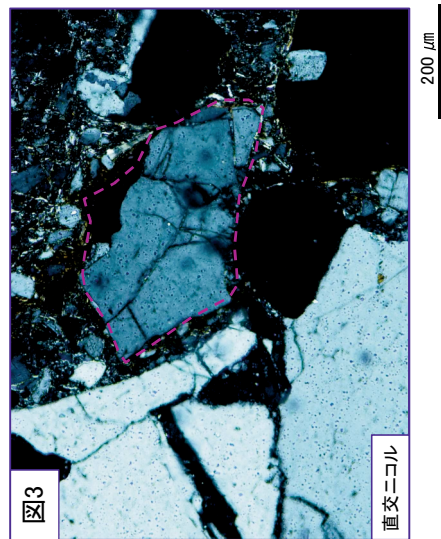
凡例
 断層ガウジ
 カタクレーサイト



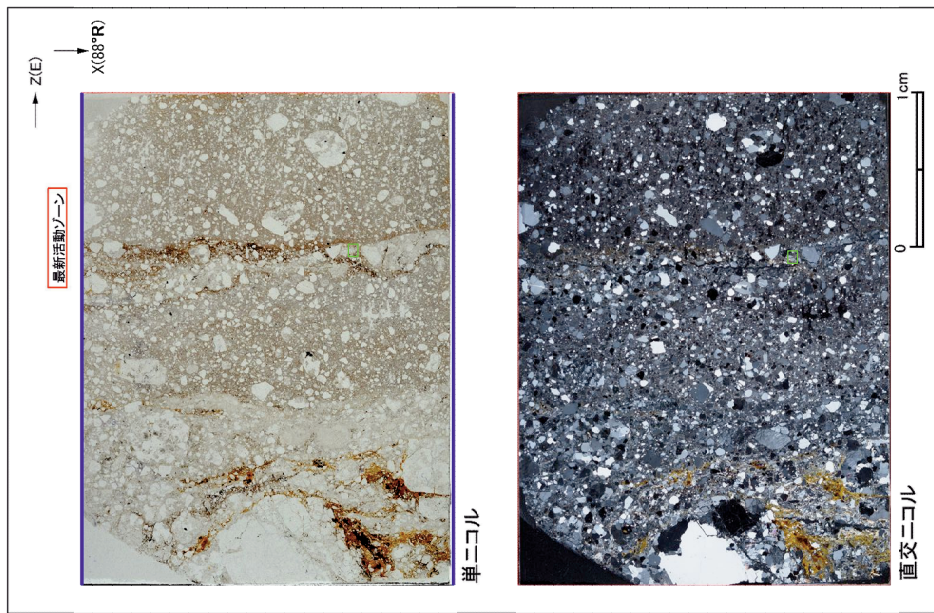
赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す



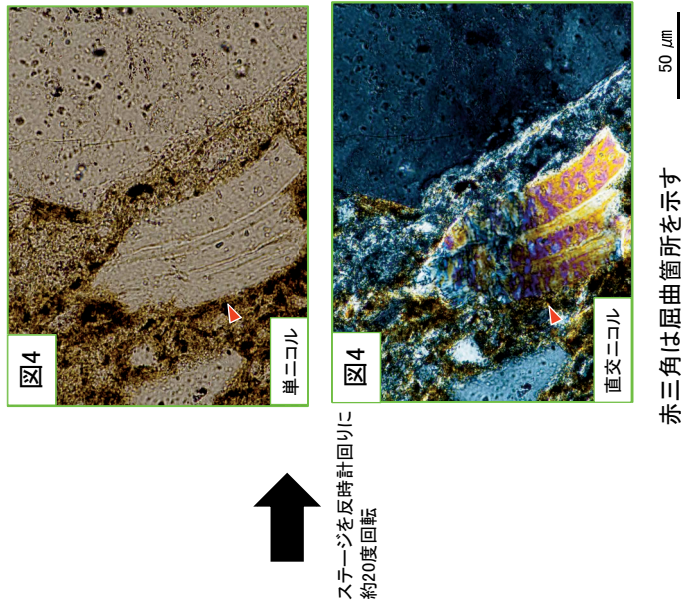
破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す



最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 > 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。(図4)



凡例
 断層ガウジ
 カタクレーサイト



↑
 ステージを反時計回りに
 約20度回転

赤三角は屈曲箇所を示す

赤三角は屈曲箇所を示す

(肉眼観察結果 深度75.73m)

- 肉眼観察では、礫混じり粘土状部は連続性及び直線性に乏しいが、軟質で原岩組織が認められる。岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジとして扱った。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 α に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 α は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められなかった。

- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- 組織は漸移的に変化する。
- 薄片観察では、以下の通りカタクレーサーサイトの特徴が認められた。
 - 多様な粒径の岩片が多く認められる。
 - 角ばった岩片が多い。
 - 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
 - ジグソー状の角礫群が認められる。
 - 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部をカタクレーサーサイトであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から変質したカタクレーサーサイトであると評価した。

- 肉眼観察で確認された軟質な礫混じり粘土状部は、原岩組織の有無が判断できないことから、断層ガウジとして扱うこととした。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴からカタクレーサーサイトであると判断した。
- 肉眼観察で確認された礫混じり粘土状部沿いに、網目状の細粒部が認められる。これは軟質サイトの露頭で認められる状況と同じであることから、熱水変質作用により生成したものと考えられる。

肉眼観察結果、薄片観察結果より、軟質サイトの特徴(熱水変質を受けたことにより軟質化している)を矛盾なく説明できることを確認した。

断層ガウジ・ 断層角礫の有無	断層ガウジ・ 断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・ 変形構造 *
無	- (1.2)	- (無)

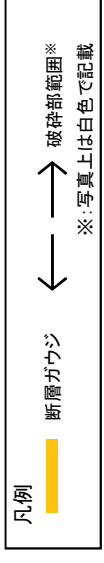
*: 断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

・深度78.72～78.87mの「粘土混じり岩片状」と記載の箇所のうち、深度78.72～78.73m間については、粘土状を呈し、やや硬質で、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められないが、細粒部の連続性及び直線性が乏しい。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。含まれる細粒部は変質したカタクレーサイト中の粘土脈である。
 ・深度78.73～78.87m間については、粘土混じり礫状を呈し、やや硬質で、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。
 ・深度78.87mの「粘土状部」と記載の箇所については、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

ボーリング柱状図

●78.72～78.87m：破砕部
 78.72～78.87m：粘土混じり岩片状部 (Hj)
 上端は31°、幅5mm褐色粘土脈で波打って、下端は60°で直線的に連続。径5mm程度の岩片からなり、岩片間の一部に幅1mmの軟質な白色粘土が脈状～斑点状に分布。にぶい黄橙色を呈する。幅130～140mm。
 78.87m：粘土状部 (Hc-1)
 上端60°で、下端60°でいずれも直線的に連続。軟質で、径1mm石英粒をわずかに(5%以下)含む。灰褐色を呈する。幅1～2mm。

コア写真



連続性及び直線性に乏しい細粒部

連続性及び直線性が良い細粒部



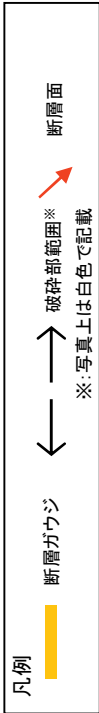
青梓部拡大

細粒部が網目状に分布する

第7.4.4.275図 (1) 破砕部性状 H27-B-1 深度78.72～78.87m (肉眼観察による断層岩区分)

・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

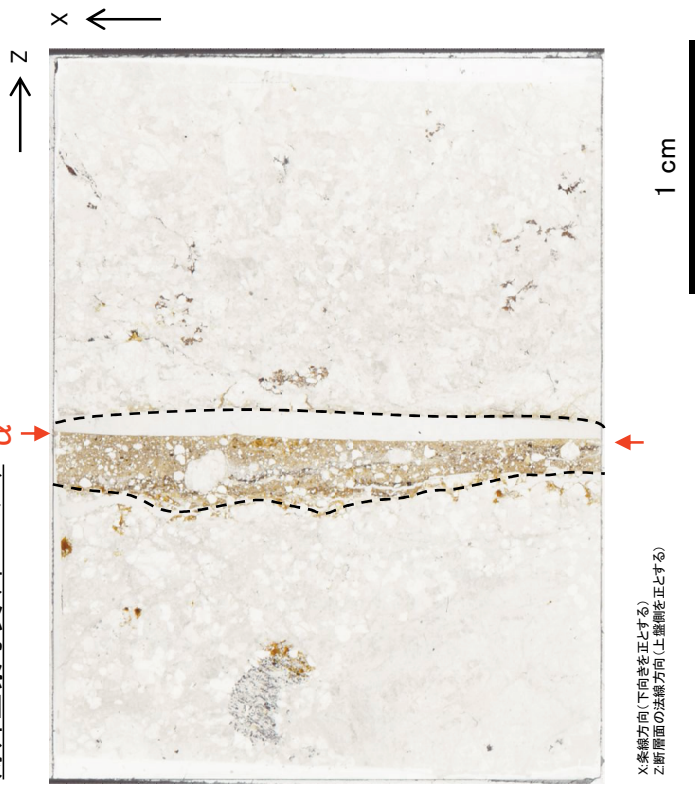
コア写真



薄片作製位置写真

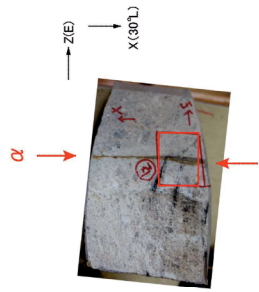
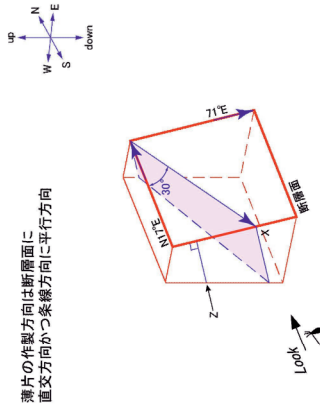
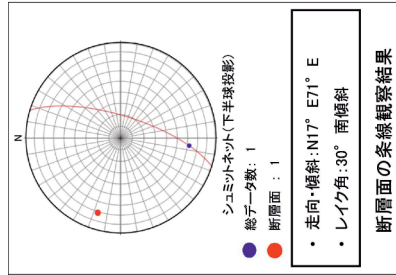


薄片全景写真(単ニコル)



- ・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、右ずれを伴う正断層である。
- ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、断層ガウジと判断した。
 - (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。
 - (断層ガウジ) 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - (断層ガウジ) 丸みを帯びている岩片が多い。
 - 岩片は少ない。

※断層面 α は最新活動面



断層面

直交ニコル

断層面

直交ニコル

※切断面に記載のX方向は誤り

系統内の基本

系統内の基本

走向・傾斜 N17° E 71° E

X: 条線方向(下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上向きを正とする)

凡例

- 断層ガウジ
- カタクレーサイト
- R1面
- P面

第7.4.4.275図 (3) 破碎部性状 H27-B-1 深度78.72~78.87m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/2))